

長崎市第五次総合計画・後期基本計画

よりよい学習習慣の育成

- 学習への構え**
物構え、身構え、心構え
- 授業で育てる学び方**
「式見小学びのスタンダード」に沿った授業の積み重ね。
- 子どもの学び力を引き出す授業づくり**
「つかむ」段階で、子どもにとって魅力的な教材と出会わせる。

本校の教育目標

四気満ちて笑顔の花咲く学校

めざす児童像

- ・やる気：自ら進んで勉強する子
- ・こん気：粘り強く努力する子
- ・げん気：元気に運動する子
- ・ゆう気：優しく思いやりのある子

よりよい生活習慣

- 進んで挨拶**
日々の指導や賞賛、児童会などのボトムアップ型の活動を組み合わせながら継続的に取り組む。
- 思いやりのある言動、正しい言葉遣い**
「さん付け」や「ありがとう、ごめんなさい」等、言葉が形に表れる実践を積み重ねる。
- 学年を交えた、みんなで外遊び**
縦割り遊び・掃除を通じた児童相互の交流を行う。

学力向上の方針と指導の重点

- 複式教育に向けた授業研究**
・複式学級研究授業・複式授業に関する研修会の実施
- 学校教育全体での取組**
・学びの習慣化メソッド（県）を授業に取り入れる・学力調査の分析と活用（授業改善の方策をまとめる）・「式見小学校学びのスタンダード（学習規律）」の徹底、教室環境の整備・まなびのタイム（朝学習）の充実・Qubenaの活用・読書指導の充実
- 家庭と連携を図った取組**
・生活リズムノート・家庭学習の手引き

1 質の高い授業を目指して

＜研究テーマ＞

複式授業における協働的学びを通して、自ら考えを伝え合う子どもの育成～間接指導でも学び続けるためのガイド学習の工夫と見通しの持たせ方～

わかる・できる授業の実践

- ① 本時の「めあて」を示し、学習の見通しと到達点を認識させ、それに対応した「まとめ」
- ② 問題解決に向けて既習事項・経験を生かしながら考えることができるための手立て
- ③ 自分の思いや考えを伝え合う場の設定とその工夫
- ④ 「書く」「話す」時間の保証
- ⑤ 机間指導による学習状況の把握と個別指導の充実
- ⑥ まなびの跡が残るノート指導
- ⑦ 練習問題を2倍の量解く時間を確保し、習熟を図る
- ⑧ 振り返りの場の設定
- ⑨ 式見小スタンダードの徹底
- ⑩ 「ガイド学習進行表」の活用

授業を支える基本的な生活習慣や心の育成

- ① 生活リズムノートの活用
学期始めの2週間、家庭と連携して生活リズムノートを記録し、基本的な生活習慣の育成を図る。
- ② 道徳の時間を中心とした心の教育の充実

本校児童の実態（学力調査等の結果から）

2 年 生		国 語
	○	説明文を読んで、重要な語句を考えて選び出す。（2年）
	○	伝えたいことを明確にして文を書く。（2年）
	▲	自分が聞きたいことを落とさないように聞く。（2年）
		算 数
	○	3口口の加法場面から、正しい答えを求める。（2年）
	▲	示された加法の式から、適切な文章を作る。（2年）
3 年 生		国 語
	○	内容のまとまりが分かるように文章を書く。（3年）
	○	第2学年に配当された漢字の読み書きを習得している。（3年）
	○	話し手が伝えたいことの中心を捉えている。（4年）
	▲	場面の様子に着目して、登場人物の行動を想像できる。（3年）
	▲	文章を読んで感じたことや考えたことを共有できる。（4年）
	▲	中心となる語や文を見つけて要約することができる。（4年）
		算 数
	○	乗法の式に合った文章問題が分かる。（3年）
	○	もとの大きさの1/3の大きさの意味を理解している。（3年）
	○	3けた÷3けた＝4けたの計算ができる。（4年）
	○	2けた÷1けた＝1けた（余りなし）の計算ができる。（4年）
	▲	長さの単位の関係を理解し、大小を判断することができる。（3年）
	▲	1L ますに示された分数を読み取ることができる。（4年）
	▲	余りのある除法の商と余りを基に、余りの処理をして、正しい答えを求めることができる。（4年）
5 年 生		国 語
	○	調べたことから考えたことを書く際に注目すべきことが分かる。（5年）
	○	当該学年の漢字の読み書きができる。（5年）
	○	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。（6年）
	▲	登場人物の気持ちが変化した出来事について、叙述を基に具体的に想像して書く。（5年）
	▲	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。（6年）
	▲	考えとそれを支える理由や事例など情報との関係について理解することができる。（6年）
		算 数
	○	問題場面の数量を捉え、分かっている数を答える。（5年）
	○	単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらが混んでいるか判断できる。（6年）
	○	立方体の体積の計算による求め方について理解している。（6年）
	▲	単位量当たりの大きさを用いて、問題を解決する（5年）
	▲	二次元表から条件に合った項目を読み取る。（6年）
	▲	直方体の箱の形を構成する面について理解している。（6年）
		○…良かった点 ▲…課題となった点（重点指導項目）

2 学習内容の定着と習熟

基礎・基本の徹底

- ① まなびのタイム（朝学習：週2回）の活用による基礎基本の学力の定着
- ② 10分間読書（朝：週2）
- ③ 定期的なテストの実施による定着・習熟の検証
- ④ 家庭学習の習慣化
・毎日：音読・漢字・計算
・実態に応じた課題

苦手分野の克服

- ① 学力調査の分析・考察し、授業改善のポイントをまとめて職員間で共有
- ② 家庭学習での自主学習の奨励
- ③ 玖島の杜・あじさいBOX等を活用した学習
- ④ Qubenaを用いた個別の指導

【達成目標】

正答率の2ポイント上昇を目指す。
（12月に学力調査を実施し、検証する。）